

環境経営レポート

(対象期間：2025年度 2024年11月～2025年10月)



エコアクション21
認証番号 0006707



Metalworking Solution
MUTSUMI 睦工業株式会社

作成日：2026年1月20日



◆ 事業所の概要

(1) 会社名及び代表者

睦工業株式会社

代表取締役 吉江 真一

(2) 所在地

〒581-0016 大阪府八尾市八尾木北2丁目28番地

Tel 072-993-6035 Fax 072-922-5585

Home Page : <http://www.mtmk.co.jp>

(3) 環境保全関係の担当者連絡先

環境管理責任者 吉江 真一

連絡先 072-993-6035 Fax 072-922-5585

E-mail s-yoshie@mtmk.co.jp

(4) 事業規模

資本金 1,000 万円

社員数 20 名

社屋床面積 733 m²

(5) 事業活動

油圧バルブ・機械部品等の設計・製造

(6) その他

フォークリフト向け油圧バルブを主体に、フォークリフト車両部品、精密機械部品の機械加工・組立まで行います。

(7) 事業年度

11月～翌年10月

◆ 認証・登録の対象範囲

全社・全活動を対象とする（本社を含み1サイト）

睦工業株式会社

環境経営方針

環境経営の基本理念

弊社で事業の主体としている機械製品製作・機械加工の環境負荷低減を図りながら、世界環境に益し、人を始め生物の生活を潤す製品づくりを目指します。経営における課題とチャンスをつまみ、自主的・積極的に環境保全活動に取り組めます。

基本方針

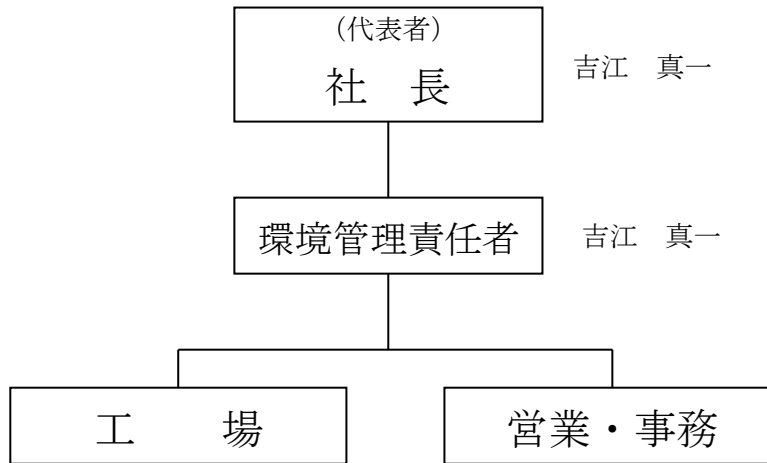
1. 具体的に下記取り組みを行います。
 - ① 電力・燃料等エネルギーの消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - ② 廃棄物削減の推進
 - ③ 水資源の節水
 - ④ 3S励行による原材料の省資源化
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守致します。
3. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。
4. 化学物質の管理に努めます。
5. グリーン購入に努めます。
6. 環境経営の継続的改善を誓約します。
7. IT活用による最新工作機械の効率的な運用により環境に配慮した生産活動を行う。

改定 2025年1月15日

代表取締役
吉江 真一  

◆環境経営目標の責任体制・実施体制

(1) エコアクション21取り組み推進体制図



(2) 責任と権限

役職	責任・権限
代表者（社長）	1 環境管理責任者の任命
	2 環境経営方針の制定
	3 経営システムの実施及び管理に必要な資源の準備
	4 環境経営システムの定期的見直しの実施
	5 社内情報の外部公開可否の決定
環境管理責任者	1 環境経営システムの確立、実施及び維持するための処置
	2 社長に対し、環境経営システムの実施報告
	3 環境経営システムの教育・訓練の計画・実施責任者
	4 全員参画による EA21 の運営改善を推進
	5 EA21 関連文書の作成、改廃、保管、伝達の業務を推進
工場	1 使用電力の削減
	2 水使用量の削減
	3 有害化学物質の使用削減検討
	4 製品に関する環境配慮（歩留向上・在庫削減など）
営業・事務	1 自動車燃料の削減
	2 一般廃棄物の削減（紙使用量の削減、リサイクル推進など）
	3 グリーン購入の推進
<p>・環境管理責任者は代表者から環境取り組みに関する権限を委譲され EA21 の推進に責任を持ち、EA21 の要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実施し、管理する。</p>	
<p>・各部の担当者は、自らが組織の中でどのような役割を担っているかを確認し、環境管理責任者の指導のもとに行動する。</p>	

◆ 過去の実績

当社の過去4年間の実績は以下の通りです。

(期：11月～10月)

年間総量		2021年度 67期	2022年度 68期	2023年度 69期	2024年度 70期
二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	110,161	112,127	82,423	79,500
一般廃棄物排出量削減	kg	496	750	876	786
水使用量削減	m ³	343	215	214	231
化学物質削減	kg	0	0	0	0
生産工程の環境配慮	%	在庫現状維持	在庫現状維持	3%増加	33%削減

※ 購入電力の排出係数

66期以降 0.508kg-CO₂/kWh (テプコカスタマーサービス (A0074) 2018年度実績 調整後係数)

69期以降 0.351kg-CO₂/kWh (関西電力 2020年度実績 調整後係数)

◆ 2025年度(71期) の主な環境経営計画

- 1) 二酸化炭素排出量 (電力削減取り組み)
 - ① 照明の LED 化
 - ② 冷房設定温度：28℃暖房設定温度：20℃
 - ③ 不使用時の消灯を励行
 - ④ 工作機械の新規導入など効率化。長時間使用しない設備の主電源オフを継続励行
 - ⑤ 工場内暖房の効率的運用
- 2) 二酸化炭素排出量 (自動車燃料削減取り組み)
 - ① 社用車のエコカーへの更新
 - ② エコドライブ、アイドリングストップの実行
- 3) 廃棄物の排出量削減 (リサイクル取組)
 - ① 一般廃棄物の分別徹底
 - ② リサイクル推進
 - ③ 裏紙の活用
- 4) 水使用量削減 (節水の取組)
 - ① トイレ・手洗い時の節水 (定期的なチェック)
 - ② 漏水のチェック
 - ③ 工場での切削時の使用量削減 (但し、安全配慮優先で切削油は水溶性に変更)
- 5) グリーン購入の推進 (数値目標は設定なし)
 - ① グリーン購入対応事務用品の調査
 - ② エコ商品カタログの活用
- 6) 化学物質の削減
 - ① トリクロロエチレンの代替完了で新規購入量ゼロを維持
- 7) 生産工程の環境配慮製品に関する取組
 - ① 在庫削減
 - ② 歩留まり向上

◆ 2025年度運用の結果と評価

目標と実績

2025年度71期（2024年11月～2025年10月）の結果（目標及び達成）

		基準年 (2024年度)	目 標	実 績	達成度 (目標/実績)	
二酸化炭素排出量 削減	kg-CO ₂	79,500	78,705	80,322	98% ×	
内 訳	電力の削減	kWh	201,823	199,805	217,794	92% ×
	ガソリンの 削減	L	1,796	1,788	1,634	109% ○
	軽油の削減	L	1,742	1,724	33	○
一般廃棄物排出量 削減	kg	786	778	801	97% ×	
水使用量削減	m ³	231	229	155	148% ○	
生産工程の環境 配慮	—	在庫削減現状維持	在庫削減現状維持	17%増加	×	

電力の排出係数: 2023年度から関西電力2020年実績調整後係数0.351kg-CO₂/kWh
有害化学物質としてトリクロロエチレン等を使用していたが、代替化を完了し購入を廃止した。

(2) 取組と評価

- ① 二酸化炭素排出量：目標未達、電力が増えたのが原因。ただし、電力は、増加しているものの、主要因の工作機械の稼働時間が116%増に対し、電力は109%増と抑えることができています。ガソリン、軽油とも、プラグインハイブリッド車への順次移行、取引先の定期便の利用により削減できた。
- ② 一般廃棄物排出量：一般廃棄物が増えている。紙が多いと思われるので削減意識高めていきたい。
- ③ 水使用量：昨年トイレ水栓の故障で増えたが、今年はこまめに点検し異常なく水使用量を抑えることができた。
- ④ グリーン購入については、削減数値目標は立てないが、グリーン製品カタログの中から選ぶなど、環境配慮の事務用品等の購入を意識している。
- ⑤ 有害化学物質の使用量削減取り組みとして、トリクロロエチレンを使用していたが代替化を完了し、購入量をゼロで推移した。今後もトリクロは使用しない予定。
- ⑥ 生産工程に関する環境配慮取組：在庫削減により資源の有効活用を図るため、効率の良い生産方式として「セル生産方式」(看板方式)の導入を2014年度に完了した。外注業者の廃業により内製化したので在庫は削減進めているが、今期はロットが大きい部品の納入タイミングで増えているのが原因と思われる。

(3) 社員の意識高揚

週一回の朝礼で取り組みの状況等を話題に上げることで、環境負荷、地球温暖化に対し理解が深まり意識の高揚が感じられる。今後期待できる。

◆次年度以降の目標

負荷削減の数値目標は原則として前年度実績1%削減をめざし、数値目標の設定を行う。

電力については、省電力機器の導入や、ITをつかった効率化等により削減を行い、二酸化炭素排出量削減を目指す。廃棄物については、実測ベースでの削減目標とする。また、工場から排出される廃材の殆どが「有価物」として売却されているため、一般廃棄物の削減を目標とする。また、水使用量の削減はこまめな点検にて、昨年度実績からの削減を目標にする。

また、グリーン購入については、今後とも、数値目標は立てないが毎月グリーン対象事務用品等を購入していくことに継続して取り組む。化学物質の削減については、従来工場で脱脂に使用していたトリクロロエチレン新規購入量ゼロを今後も目指していく。

環境に配慮した生産工程に関する取り組みとしては、「在庫削減」を目指す、かなり推進できたので、現状を維持する取り組みとする。

2025年度以降の目標値

年間総量		基準年 2025年度:71期	2026年度 72期	2027年度 73期	2028年度 74期
二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	80,322	79,519	78,724	77,936
一般廃棄物排出量削減	kg	801	793	785	777
水使用量削減	m ³	155	153	152	150
生産工程の環境配慮	—	在庫の現状維持	在庫の現状維持	在庫の現状維持	在庫の現状維持

*購入の排出係数: 関西電力 2020年実績調整後係数 0.351kg-CO₂/kWh (2022.1.7公表値)

*年度と期の例は次の通り: 2026年度(72期)は、2025年11月~2026年10月を示す。

◆2026年度(72期) 主要な環境活動計画の内容

(1) 目標を達成するための取組

1) 二酸化炭素排出量(省エネに関する取組)

- ①室内空調、夏は28℃、冬は20℃
- ②不使用時消灯の励行
- ③新規設備導入による効率化など。

なお、継続して設備不使用時の主電源オフに取り組む。

- ④工場内冷暖房の効率的運用
- ⑤社用車のエコカーへの更新。アイドリングストップなど。

2) 廃棄物の排出量削減(リサイクル取組)

- ①一般廃棄物の分別徹底により、リサイクル推進
- ②裏紙の活用

3) 水使用量削減(節水の取組)

- ①トイレ・手洗い時の節水
- ②こまめな点検により異常発生防止

3) 化学物質の削減

- ① トリクロロエチレンの代替品の活用により、トリクロロの全廃を維持する。
- ② その他、シンナー等の使用も全廃を維持する。

5) 生産工程の環境配慮に関する取組

- ① セル生産の活用で在庫削減が進み、今後は現状を維持する。

(2) その他の取り組み事項

- ① 社員の環境への意識高揚のために定期的な研修会や会議を行う。
- ② 目標達成状況の定期報告。
- ③ 会社ホームページを活用した Web マーケティングを検討する。

◆環境関連法規への遵守状況並びに違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる主な環境関連法規

主な適用法規等	該当する活動	評価
下水道法	生活排水のみ（日量50m ³ 以下）	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の適正保管 廃棄物の適正処理委託（一廃、産廃） マニフェスト管理、保管、実績報告 特管産廃の処理委託実績なし	○
騒音規制法、振動規制法	コンプレッサー（11kW）H22.10.7 届出済み	○
フロン排出抑制法	業務用エアコン等廃棄時適正処理（廃棄なし） 業務用エアコン及びコンプレッサー付属のエアド ライヤの簡易点検の実施・記録および機器廃棄後 3年間記録保管。	○
省エネ法	事業活動全般（省エネ努力）	○
使用済自動車の再資源化に関する法律	社用車の廃棄時の適正処理（更新時）	○
家電リサイクル法	テレビ等事業所内使用品の適正処理（廃棄なし）	○
グリーン購入法	コピー紙等グリーン対象事務用品の購入努力	○

(2) 違反、訴訟等

環境関連法規への違反や訴訟はありません。なお、関係当局より違反等の指摘はありません。また、苦情もありませんでした。

◆代表者による全体評価と見直し・指示の結果

(1) 取り組みの評価と今後の課題

「エコアクション21」の活動を開始してから13年強経過した。EA21の要求事項に従った環境経営システムの構築を進めてきたが、まだまだ環境負荷低減に向かった活動が定着したとは言えず、今後さらに社員全員への意識の浸透が必要である。

- ・具体的なテーマで環境経営目標を設定し取り組んできた。
- ・今後とも省電力機器への入れ替えを進め、電力量削減等二酸化炭素排出量の削減に取り組む。
- ・水使用量は故障の場合は早期発見を行えるようにしながら、今後とも節水の意識継続により、水使用量削減を目指す。
- ・顧客対応も含め、在庫を現状並みで維持する。

(2) 見直しと指示事項

目標値は、今年未達であった項目を含め「前年実績比1%削減」を各テーマに設定することを基本とする。化学物質の使用は全廃。在庫削減は現状を維持する。全社員での取り組みをさらに浸透させること。環境経営方針は据え置くものとする。

(3) その他変更の必要性の有無

環境経営方針	変更の必要なし
環境経営目標・計画	変更の必要なし
実施体制	変更の必要なし

◆次回の環境経営レポート作成予定

2026年12月